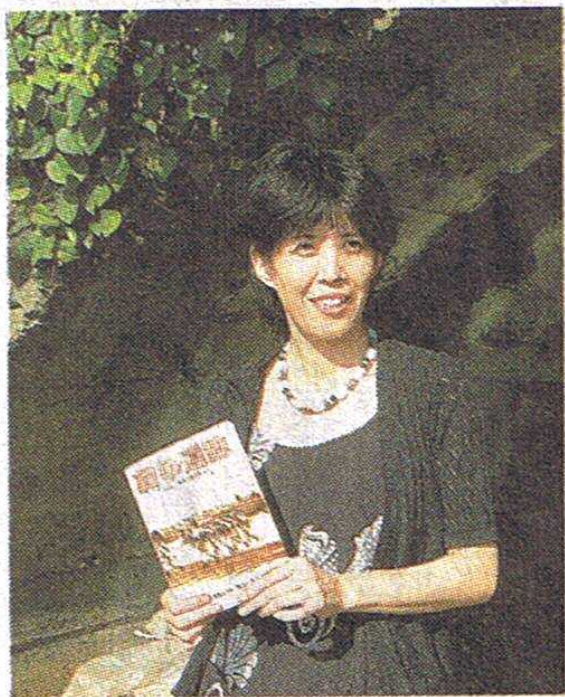


## いけだ えみこ 池田 恵美子さん

NPO法人「南房総文化財・戦績保存活用フォーラム」事務局長



第2次大戦末期、「本土決戦」に備え多くの軍事施設がつくられた千葉県の房総半島南部。「東京湾要塞」と呼ばれた。その遺跡の保存と地域の再発見を呼びかけている。半島南端の館山で育った。家の前の直線道路は旧館山海軍航空隊の滑走路跡、遊び場は地下壕や砲台跡だった。小学校の終わりにハワイの

## 「東京湾要塞」から大戦を知る

サマーキャンプに参加したとき日本軍の真珠湾攻撃を教えられた。教科書で学ぶのとは違う衝撃を受け、戦争とは何かを真剣に考えた。

フェリス女学院大から保険会社などで東京に17年。体調を崩して00年、館山に戻る。地域雑誌の編集をしていた際、戦跡の調査と保存活動を続ける高校教師と出会った。

「館山の基地で訓練を受けたパイロットが真珠湾に出撃した」「基地に近い赤山地下壕（総延長約2キロ）では無線で太平洋全体の戦闘を指揮していたのではないか」ふるさとの戦争で果たした役割を知った。学校の勉強だけではわからないことがあ

る。「子どもたちに戦跡をみてまず何かを感じてほしい」04年、高校教師とともに戦跡を保存・活用するNPO法人を設立した。市は赤山地下壕を一般公開し、文化財に指定した。年約1万5千人が訪れる。特攻基地などを含めた戦跡の見学コースをつくり、ガイドも養成する。

住民の歴史も掘り起こす。戦争中、地元農家は食糧増産のため栽培を禁じられた特産の花の種を隠して残した。戦争だけではない。「八犬伝」の里見氏の城跡、4言語が刻まれた江戸時代初期の石塔、渡米したアワビ漁師……。

「先人の営みに学びたい」

（編集委員・辻陽明）